

平成29年度 第1回 飛騨神岡高等学校
地域連携による活力ある学校づくり推進協議会 議事要旨

日 時	平成29年6月3日(土) 10:00~12:00
場 所	飛騨神岡高校 ゼミナール室
出席者 (敬称略、 委員名は 50音順)	<p>(委員)</p> <p>岩 塚 藤 嗣 神岡小学校 校長 上 田 昌 子 飛騨市役所企画部地域振興課 牛 丸 昌 弘 神岡鉱業株式会社 常務取締役 上 葛 健 介 社会福祉法人神東会 事務局長 小 西 清 明 飛騨市立山之村小中学校校長 清 水 貢 飛騨市教育委員会 事務局長(代理) 下 田 章 有限会社カワデン 代表取締役 十 松 昭 英 飛騨市神岡振興事務所 所長 田 口 由加子 NPO法人神岡・町づくりネットワークレールマウンテンバイク事務局 都 竹 淳 也 飛騨市長 中 村 篤 志 飛騨市役所企画部地域振興課 係長 布 俣 正 也 岐阜県議会議員 水 口 寛 俊 飛騨神岡高等学校育友会長 森田 雄一郎 飛騨市役所企画部地域振興課 課長 山 口 郁 夫 山口鉄工所(GSA実行委員会委員長) 湯之下 明宏 飛騨市役所企画部 部長 渡 邊 登紀夫 飛騨市立神岡中学校 校長</p> <p>(高校側等)</p> <p>高 田 広 彦 校長 谷 脇 浩 彦 教頭 野 村 宏 治 事務長 宮 垣 雅 巳 教務主任 中 田 和 美 進路指導主事 中 村 英 樹 事業担当 中 村 裕 征 事業担当</p>
議事概要	<p>魅力ある高校となるために本校に期待されること</p> <p>1 学校の活性化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 魅力ある高校づくりへの取組の成果のバロメータとして定員を満たしたということがデータとしてあるが、全校生徒数でなく、学年別に見ないとトレンドがわからない。 ・ 昨年度と今年度の入学者数の増加は、古川中学校からの進学者が増加したことによるものである。飛騨市内の中学校の動向を見ていく中で、古川中学校の生徒がどういった意識で飛騨神岡高校を選択したのか、どういった選択構造だったのかの分析が、今後の活性化の取組を考えていく上で重要なポイントになる。

- 飛騨神岡高校の場合、古川中学校からの入学者が増えたのは何故なのかに魅力のカギがあったり、ヒントがあったりするのではないかと。1年生がどういった理由で飛騨神岡高校を選んだのかについての調査する必要がある。
- 飛騨神岡高校は少人数クラスと入学してから系列が選択できるというのが特長だが、学び直しや発達障がい生徒への対応については、昨年、議論として大きな論点として出たが、そこについてどう強化していくのかさほど議論されていない。そういった機能を飛騨神岡高校が担っていくということがあり得るのかどうか。それは学び直しというだけでなく、地域の大事な担い手である子どもを地域に根付かせるといった観点からも医療・福祉と連携して取り組めれば、次なる飛騨神岡高校の魅力と地域の問題解決につながるのではないかと。そういった昨年の反省も踏まえて、今年度の取組を強化していく必要がある。
- 生徒の様子は生き生きしている。生徒の皆さんは個性の塊で、少人数授業の中で個性を活かしているし、また、個性を伸ばしている。
- 飛騨神岡高校が学び直し、学力の保証、発達障がいにも力を入れているのがよくわかる。ただ、それらが特化してしまうとどうなのかという声も聞いたことがある。もっと大学進学に力を入れてほしいということもある。
- 中学校でキャリア教育を十分行っているが、高校に入学してから教科「産業社会と人間」でキャリア教育をまた1から始めると、十分なキャリア教育を行ったメリットがなくなるので、さらに具体的なキャリア教育ができるようにしてほしい。
- 入学した1年次生の感想でも総合学科で1年間じっくり進路を選べるという感想を書いている生徒もいるが、そういう生徒ばかりでなくて他の魅力で入学した生徒もいる。
- 「産業社会と人間」が始まってから20年経つが、キャリア教育・進路選択として十分な役割を果たしているか、今以上に魅力ある教科にしてほしい。
- 魅力ある高校づくり、中高一貫、総合学科で様々な進路、考え方があがるが、先生には大変だが、それらを活かしたことができるとよい。

2 学校間及び地域との連携について

- 中高連携によって神岡町内にある本校において多大なるメリットがある。2年生から体験授業や部活動交流でいろいろな経験をさせてもらっている。これは他市にはない。生徒にとって早くからキャリアデザインを描くことができ、キャリア教育につながっている。
- 神岡中学校からの進学率が50%を切っているが、小学生からずっと友人関係が一緒なので、神岡を出たい、新しい友達づくりをしたいという子供もいる。
- 中高連携について授業や部活動交流で飛騨神岡高校には非常にありがたく思っている。昨年度の卒業生は、当初迷っていたが、部活動交流の体験等から最終的に飛騨神岡高校を選んだ。これも中高連携の一つのメリットだと思っている。
- 小学校の時に不登校傾向だった生徒が元気よく通っているのを見てほほえましく思っている。さらにもっと子供と子供のつながりを大事にするなら、中学校の技術の授業で高校生とマンツーマンで教えてもらおうとか、部活動を一緒に行うとか、子供一人ひとりのつながりを大事にするとさらに魅力が広がるのではないかと。
- 昨年、船津座で「できんのか」というロボットプロレスをロボット部と連携して開催して非常に好評だった。飛騨神岡高校ロボット部をPRできたし、いろんな方に来ていただけた。そういった中で飛騨神サポーターはまだしっかりした組織としてなっていないので、今年度中に飛騨神サポーターをしっかりと組織に構築したい。

学校と地域の方と連携して盛り上げていきたい。

- ・ 楽天IT学校の取組などあるが、観光に携わっている人間としては、その取組によって売れ行きがどうなったのかなどか、ハッ三館の人が飛騨神の生徒を受け入れてどんな印象を持たれたのか、そういった感想を聞きたい。
- ・ 社会福祉法人神東会としては、老人ホームたんぼぼ苑を運営する中で飛騨神岡高校と協力や連携をしているが、今後も取り組んでいきたい。
- ・ 地元企業を知ってもらう意味で企業見学会の回数を増やしてほしい。採用が難しい中で一人でも多く地元採用を増やしていきたい。少しでも知っていただく機会をお願いしたい。
- ・ 東大生との交流も生徒の感想だけでなく、相手方の飛騨神生に対する感想を聞ければ、飛騨神の生徒にどういった生徒がいるのかという把握にもつながるのではないか。昨年度も発言したが、やはり大学院生からの意見も聞きたい。東京大学と聞くと恐れおののくような垣根を取り除く良い機会だと思う。また、研究施設にいる学生は大学院生で年が離れすぎているので、理学部等の学生と交流ができると何かいろいろなることが変わっていくと思う。東京大学との連携については以上のことも踏まえて推進してほしい。
- ・ 東京大学の先生方は、この高校から大学に進んで研究施設で研究するために戻ってくる。そんな生徒が出たらよいと思っている。行政としてもできるだけサポートしていく。

3 情報発信について

- ・ 楽天IT学校の様子が新聞記事に取り上げられていたが、新聞についても飛騨版だけでなく県内版、社会面に載るようなメディア露出を進めてほしい。
- ・ 少子化は免れない事実であり、現在の小学校、中学校の生徒に飛騨神岡高校を知ってもらう取組は大切である。保護者についても飛騨神岡高校の魅力や取組を知らない方もいるので、私たちや飛騨神サポーターの努力が必要である。実際、神岡中学校からの飛騨神岡高校への進学率が5割を切っているという状況を踏まえながら、他の学校にない飛騨神岡高校の魅力をもっと前面に出して、小中学校の子供に理解していただくことを昨年にも増して強化していく必要がある。
- ・ 生徒の絶対数が減ってくると、財政的に厳しくなる。部活動の遠征などにも影響が出てくる。今後も定員を超えるような希望者が来てほしい。高校選択には親の考え方も重要になってくるので育友会の活動を通してPRしていきたい。
- ・ 学校の魅力を地域の人、県内、全国に発信したい。目途としては11月までに飛騨神サポーターの組織を正式に発足したい。